

A TSU RA E R Up Cycle

-埼玉県加須市の古民家の継続的改修計画-

戸田研究室
01812096 須永 月乃

1. 背景・目的

計画地の埼玉県加須市には現在、約 4,400 件の空き家があり¹⁾、増加傾向である。推定築 200 年の空き家の古民家は、伝統的農家の間取り、養蚕や馬と人が共に暮らした痕跡があり、物に溢れる。「あつらえ」られた他者依存の大量生産品を購入、消費するだけでなく、自ら取捨選択する「あつらえる²⁾」
注¹⁾技術で既存物を日常的に活用する環境配慮的なライフスタイルが重要になる。元刑事の施主は壊れたものを修理・再利用する観察眼に優れている。筆者らも研究室で日々楽しみながら実験的に DIY を行い(写真 1)、物を大切に、自分流に「あつらえる」

点で共通する。一方、施主と学生では空き家の古物を汚い、かわいと思うか等の感覚が異なる。しかし、アップサイクル³⁾(以下 UC)的に事物を多角的な視点や感性で捉えることで、世代や時空間を架け渡す可能性がある。



写真1 アップサイクル(UC)例
左: 施主作、ビール缶で作した簡易コンロ
右: 研究室での継続的試作、あつらえDIY

したがって、本計画では、学生自ら鑑識的な建物調査や試作を進め、部分的なUCから全体の改修を時限なく目指す継続的な改修を試みる。

2. 敷地概要

敷地所在: 埼玉県加須市今鉢 用途地域: 無指定
敷地面積: 約 2980 m² 延床面積: 約 130 m²(図 1.2)

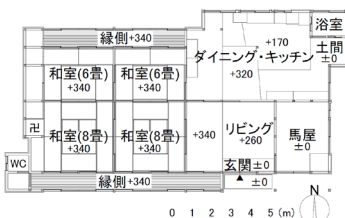


図1 既存平面図

敷地周辺は住宅が少なく、広大な水田に囲まれ敷地内には古民家(写真 2)や母屋、倉庫、祠、畑等がある。



写真2 古民家外観とあつらえ隊

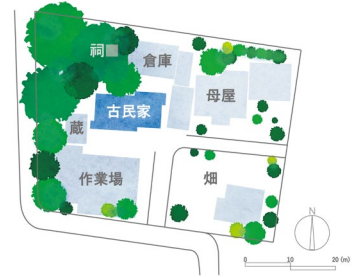


図2 敷地配置図

3. 計画概要

一度に解体撤去する計画では廃棄物が多く、UC が困難であるため、部分的な解体やデザイン、試作を繰り返す。例えば内装材を剥がしてUCを検討する際、現れた構造体の調査も行う。学生が直感と推理を駆使したUCにより、じっくりと継続的な部分改修を積み重ねて「あつらえる」価値を見い出す。

3.1 調査概要

アンケート調査: 古民家の建具や建材等の印象を調査^{注2)}した(図3)。網代は「つめたい」、建具は「懐かしい」や「親しみやすい」等の印象であった。また、現代の住宅には見られない柄付きのすりガラス(図4)やガイシは「目新しい」「親しみにくい」等の印象がみられた。

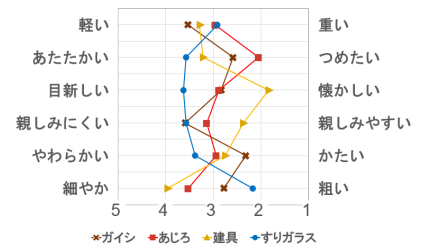


図3 古民家の建具や建材等の印象評価平均値(N=129)

建物調査: 実測調査では、何度か手が加えられ、パッチワークのように継ぎが多くみられた。小屋組みが不明だったため、剥がれ始めの網代天井やさお縁天井を解体し、素材を鑑識的に調査した(写真3)。網代や木板を回収し、モンタージュして素材の組み合わせを検討しブリコラージュ⁴⁾を試みる(図5)。



写真3 古民家素材を鑑識的に並べて調査

3.2 改修の実践プロセス例

欄間×蔀戸：田の字型プランでは、部屋の奥へ行くほど暗くなる。古民家の既存の欄間に鏡や食器の柄等をUCし、反映させたライトシェルフを設える。採光だけでなく、蔀戸的に通風にも配慮する(図6)。

水平×垂直：養蚕の名残で小屋裏は高く広い。西側は天井を抜いて小屋組みを魅せる。採光はトプライトを設け、確保する。東側は水平面に建具を敷き詰めて天井とする。一部ロフトを設けて、上下階の視界を確保する(図7)。

囲炉裏×煙突：解体時に小屋裏で発見された煙突を再利用する。改修中に出た廃木材を薪として利用することで、囲炉裏(調理場)や暖炉とする(図8)。

足場×階段：長いものを片付ける際、斜めに立て掛ける発想から、壁の一部を解体し、角度や位置を変化させ、改修段階ごとに足場の役割も変える(図9)。

4. まとめ

物変わり星移る世の中で、目星しいものに推理や感性を重ねることで、UCする。すなわち、身の回りのものをあつらえる力をつけることで、「住」環境を身近に引き寄せる。部分的に継続を重ねる時効なき未完の改修ストーリーである。

【謝辞】

本設計を行うにあたり、ご協力して頂いた施主の新井様、当研究室あつらえ隊のメンバー、そして戸田先生には厚く御礼申し上げます。

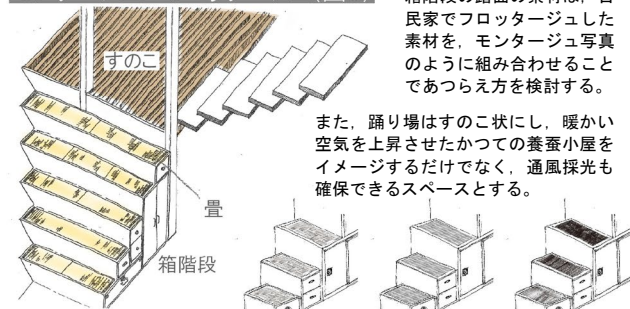
【注記】

- 1) 本計画では、自分好みで個性豊かに生活するために自分の寸法や使いやすさに合わせて作り直すことを「あつらえる²⁾」と定義する。すなわち生活技術の回復である。
- 2) 2021年11月半ばに本学の製図系、木造系実習各々の受講生、計3科目253名を対象にオンラインでアンケート調査を実施し、計129名から回答を得た(回収率51.0%)。

【参考文献】

- 1) (公財)日本賃貸住宅管理協会 さいたま支部：空き家相談の窓口、<http://saitama.akiya-mado.jp/>, 2021年5月7日閲覧
- 2) 秋岡芳夫：めいめいの暮らし、クリエイティブに 新和風のすすめ、モノ・モノ文庫, 2020
- 3) 田中浩也：SFを実現する-3Dプリンタの想像力-, 講談社現代新書, 2014
- 4) クロード・レヴィ=ストロース：野生の思考、みすず書房, 1976

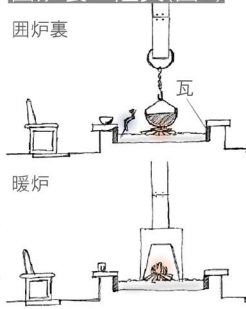
モニタージュ×フロッタージュ(図5)



箱階段の踏面の素材は、古民家でフロッタージュした素材を、モニタージュ写真のように組み合わせることであつらえ方を検討する。

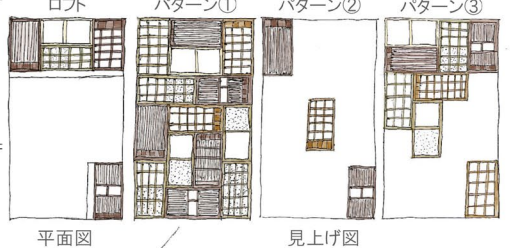
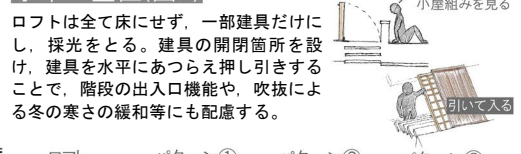
また、踊り場はすのこ状にし、暖かい空気を上昇させたかつての養蚕小屋をイメージするだけでなく、通風採光も確保できるスペースとする。

囲炉裏×煙突(図8)

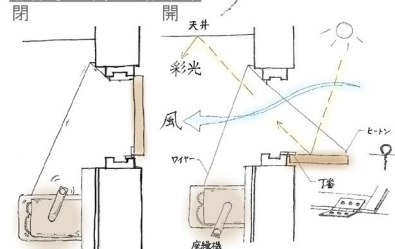


土間スペースには囲炉裏を設置する。冬にはドラム缶等を被せ、暖炉としてのUC活用も考えられる。煙突を長くし、部屋全体を温める。

水平×垂直(図7)

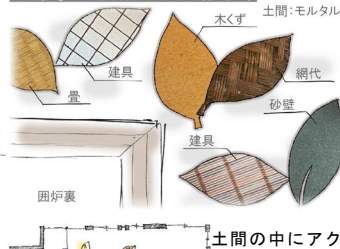


欄間×蔀戸(図6)



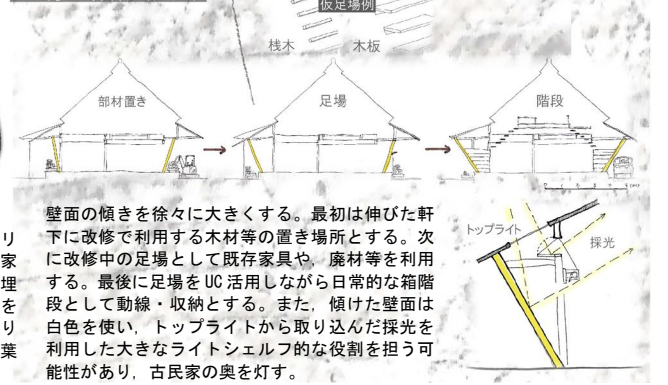
欄間にライトシェルフと蔀戸の機能を持たせる。開閉の機構は、かつて養蚕に用いた古民家の座繰り機をUC活用しワイヤーを巻き取り角度調整する。入手しやすい金物を使用し修理も容易で、壊れた歯車に3Dプリンタでパーツを制作し異素材のハーモニーで美しく長持ちさせる。

土間×すりガラス(図4)



土間の中にアクリルに挟んだ古民家の様々な素材を埋め込み、想い出をあつらえる。すりガラスにあった葉をイメージした。

足場×階段(図9)



壁面の傾きを徐々に大きくする。最初は伸びた軒下に改修で利用する木材等の置き場所とする。次に改修中の足場として既存家具や、廃材等を利用する。最後に足場をUC活用しながら日常的な箱階段として動線・収納とする。また、傾けた壁面は白色を使い、トプライトから取り込んだ採光を利用した大きなライトシェルフ的な役割を担う可能性があり、古民家の奥を灯す。